

## 英語語彙におけるゲルマン系二重語(2)

安 達 一 美

(武庫川女子大学文学部英米文学科)

## Germanic Doublets in the English Vocabulary(2)

Kazumi Adachi

*Department of English, School of Letters*

*Mukogawa Women's University, Nishinomiya 663-8558, Japan*

### Abstract

Doublets are defined as the words that are cognates but are different in form and/or in current meaning. English doublets can be categorized into the Italic-, Germanic- and Greek-derived by their etymological sources. This paper that consists of two parts aims first to subcategorize, according to the process of borrowing, the Germanic doublets selected from Allen's list of English doublets, and second to present the processes of borrowing into English subcategorically. The present paper, as its Part 2, focuses on the Germanic doublets which are derived out of native English vocabulary.

### 2 ゲルマン系二重語の経路による分類

#### B) 本来語内で生じた二重語

ゲルマン語源の語が、他の言語を経由しないで、古英語に入り分化して二重語となった例は数多く見られる。時代とともに生じた音体系の変化や、部族毎に定住した地で発達させた方言の差異、また、屈折による分化などによって生じたのであった。ブリテン島移住以前の前英語時代から音体系の変化は存在していたが、5世紀になって、アングル族、サクソン族、ジュート族がブリテン島に移住した後も続いた。

古英語期における主要な母音変化は、割れ(Breaking)、後退(Retraction)、二重母音化(Diphthongization)、前舌化(Fronting)、ウムラウト(Umlaut)、母音縮約(Contraction)、アングリアン滑化(Anglian Smoothing)、ウェスト・サクソン滑化(West Saxon Smoothing)などである。また、その他にも、中英語期や近代英語期にもみられる長音化(Lengthening)及び短音化(Shortening)、非円唇化(Unrounding)及び円唇化(Rounding)などがある。

中英語期においては、OE[æ]>ME[a], [ɑ]>[ɔ:], [a, u, o]>[ə]などの母音推移(Vowel Shift)、新しい二重母音の発達、上げ(Raising)、下げ(Lowering)、完全母音[a, o, u]の曖昧母音化、音消失(Phonetic Loss)、音添加(Phonetic Addition)などの変化が起こった。

中英語と近代英語を分ける母音変化に大母音推移(the Great Vowel Shift)と呼ばれるものがある。古英語期のウムラウトが母音表の横軸に母音が推移したの対して、大母音推移は強勢のある長母音が縦軸に推移したもので、15世紀から始まり1800年頃まで続いた。また、近代英語期のその他の母音変化では、子音の前や語末の[r]の消失による先行母音の長音化や、[e:] [u:]の短音化などがある。

子音変化の主なものは、古英語・中英語・近代英語期を通じての、口蓋化(Palatalization)、擦音化(Aspiration)、音消失、音添加、同化(Assimilation)、異化(Dissimilation)、音位転換(Metathesis)、異分析(Metanalysis)、有声化(Voicing)、無声化(Devoicing)などである。

時代的な音変化によって生じた二重語の例として、ウムラウトにより生じた deal/dole、音位転換の

spurt/sprout, 母音添加の through/thorough などがある。deal と dole の語源は Gmc \**dailiz* である。ゲルマン諸言語における i-ウムラウトにより、この基語から OE *dál* が生じた。また、子音 [l] の前の [a] のウムラウトによりアングリア方言を中心に [æ] が生じ、*dál* と *dǽl* が併存した。[a] のウムラウトによって生じた [æ] は OE 末期には [e] へ変化し、*dǽl* は ME *dele* を経て *deal* となった。一方、*dál* は、[a:] が中英語期の 13 世紀初めまでには円唇母音 [ɔ:] へ推移し、ME *dol*, *doole* を経て *dole* となった。

spurt と sprout は、母音と子音の音位転換により生じた二重語である。語源は Gmc \**sprutan* であり、spurt は OE *spryttan* から ME *sprutten*, そして *sprit* となり、音位転換により *spirt* を経て spurt となった。一方、sprout は、OE \**sprútan* から ME *spruten* を経て sprout となった。この場合の音位転換は、強勢音節中において [s] を伴う短母音と [r] とが転換するもので、転換しない形態と併存することもしばしばあった。

through と thorough は、母音添加によって生じた二重語である。いずれも Gmc \**thurh* を語源とし、OE において *purh* と *puruh* に分かれた。*puruh* は *purh* の full stressed form であり、母音添加により変化したものである。語中の流音と鼻音は他の子音との間に軽く母音が挿入されるのである。挿入される母音は、先行する母音が *purh* のように後母音の場合は [u] となる。その結果、*puruh* が生じ、ME *thorugh* を経て thorough になった。一方、*purh* は、ME *purgh* を経て through となった。

当然のこととして、音韻変化は古英語の各方言に均等に生じたものではなかった。むしろ、各方言において独自の発達を遂げたものが多かった。アングル族、サクソン族、シュート族の言語は、大陸時代にはそれぞれに方言的な特異性を有してはいたが、語彙を除き、音韻的にも統語的にも近接したものであった。しかし、ブリテン島に移住したこれらの部族は各地に離れて定住したため、方言的な差異が次第に大きくなっていった。

古英語期の方言は四つに区分することができる。つまり、北部地方のノーサンブリア方言、イングランド中部のマーシア方言、イングランド南西部の西サクソン方言、そして、ケント地方のケント方言である。なお、ノーサンブリア方言とマーシア方言は言語的特徴に類似点が多いことから、まとめてアングリア方言として扱われることがある。

中英語期には方言地域は五つに区分されるようになった。ノーサンブリア方言から北部方言が、マーシア方言が地域的に広がり東ミッドランド方言と西ミッドランド方言が、西サクソン方言から南西部方言が、ケント方言から南東部方言が発展した。(ただし、本論文中においては、特に方言の区別を要しない場合及び区別が困難な場合は、単に OE, ME と記載する。)これらの方言境界線は州の境界線とほぼ一致していることが多く、行政上の境界と関わりが深いことを示唆している。同時に、交易や文化交流による隣接各語への影響が多であったことも無視できない。

方言による音韻の差によって生じた二重語には、scatter/shatter, dike/ditch, hale/whole, dint/dent などがある。scatter/shatter と dike/ditch は、口蓋化と擦音化の進んだ南部方言と、ON の影響を強く受けて口蓋化や擦音化を生じさせていない北部方言との差異により生じた二重語である。scatter と shatter の語源は Gmc \**skat* であり、OE *sceaterian* を経て、scatter は ME *scateren* を、shatter は ME *schateren* を経ている。また、dike/ditch は、Gmc \**dik* から OE *díc* を経て、ME において方言差で *dik* と *dich* に分かれ、dike と ditch に至った。

hale と whole の語源は Gmc \**hailaz* であり、OE *hál* を経て、ME で北部方言 *hale* と南部及びミッドランド方言の *hol* とに分かれ、北部方言から *hale* が、南部方言から *whole* が生じた。OE [a:] は ME において円唇化されて [ɔ:] に推移した。しかし、Humber 河口から Yorkshire East Riding の南限と Yorkshire West Riding を通り Lancashire の Lune 川に至る等語線から北側においては、円唇化は起きず [a:] を保持した。ME [ɔ:] はこの等語線より北においても起こった。一方 [a:] はこの南限の等語線を越えて起こることはなかった。

dint と dent は、Gmc \**duntiz* から OE *dynt* を経る。OE [y:, y] は中英語期に方言によって異なる母音推移がおこなわれた。OE [y:] は、Lancashire を除く西ミッドランド方言では 1300 年頃まで、南西部方言では 14 世紀中保持された。南東部方言では非円唇化過程により [e:], [ɛ:] へと変化し、北部方言と東

ミッドランド方言では非円唇化過程により[i]へ変化した。dint は北部及び東ミッドランド方言の ME *dint*, *dunt* を, dent は南東部方言 ME *dente* を経て生じたものである。

OE は屈折を中心とした分析的言語であったが, ME 期には屈折の平準化(levelling)が始まって総合的言語への方向を辿り, 現代英語で残っているのは 8 種類の屈折だけである。その屈折による異形態によって生じた二重語がある。例えば, enow と enough の語源は Gmc \*zanōzaz であり, OE *zenóʒ* において, 男性と中性の主格及び対格の単数形が *zenōh* に, そして複数形が *zenōʒe* へと屈折した。18 世紀においてこの二語が標準語として区別され, 単数形から enough が複数形から enow が生じた。現在においても, 多くの方言では単数形と複数形の区別を伴いつつ, これら二語を使用している。stave と staff は Gmc \*stabaz と OE *stæf*, ME *staf* を経る過程で, stave は ME *staf* の複数形 *staves* から逆成によって生じたものである。また, cot と cote は, それらの語源 Gmc \*kutom から分出した OE *cot* を経るが, このうち cote は OE *cot* の女性名詞 *cote* から生じたものである。

以下においては, ゲルマン語を語源とする二重語のうちで, 二語ともが古英語を経由して成立したものを四つに分類して記載しておく\*。

## ①音韻変化にともなるもの

as / also [研究社/ Barnhart]

[as ad. 'to the same extent or degree'](a1000)†“of quantity or degree” ME *as(e)*, *als(e)*, *also*, *alswa* < OE *ealswá*, *ælswa*, *alswá* ‘also, so’ < Gmc \*allaz ‘all’

[also ad. 'besides'](c1200)“wholly so, or quite so” ME *al so* < OE *ealswá*, *ælswa*, *alswá* < Gmc \*allaz

deal / dole [None]

[deal n. 'the act of apportioning or distributing'](a800)†“a part or division of a whole” ME *del*, *dele* < OE *déel* (parallel umlaut form of *dál*) ‘a part, portion’ < Gmc \*dailiz ‘division’

[dole n. 'charitable dispensation of good'](c1000)“the state of being divided” ME *dale*, *doole* < OE *dál* ‘a division, portion’ < Gmc \*dailiz

naught / nought [None]

[naught n. 'nothing'](c825)“nothing” ME *naught*, *nought* < OE *náwiht* ‘nothing’ < Gmc

[nought n. 'nothing'](c897)“nothing, nought” ME *nought*, *nouht* < OE *nówiht* (var. of *náwiht*; parallel formations to OE *náwiht*, *nówiht* appear in OS, *nēowiht*, *niowiht*) < Gmc

of / off [None]

[of prep. 'derived or coming from'](a855)†“indicating the thing, place or direction whence anything goes, comes, or is driven or moved” ME *o*, *o'* < OE *of* (unstressed form of *æf*) < Gmc \*af ‘in’

[off ad. 'from a place or position'](a971)“expressing motion or direction from a place” ME *ofe*, *offe* < OE *æf* (stressed form of *of*) < Gmc \*af

outer / utter [None]

[outer a. 'located on the outside; external'](c1410-25)“that is farther out than another, exterior” ME *outter* < OE *úterra*, *útera* ‘outer’ < Gmc \*utizon ‘out’

[utter a. 'complete, absolute'](a901)“that is farther out than another; relatively far out” ME *uter*, *utter* < OE *úterra*, *útera* < Gmc \*utizon

spurt / sprout [None]

[spurt v. 'to burst forth'](1570)“to spirt” ME *sprutten*, *sprit* < OE *spryttan* < Gmc \*sprūtan ‘to sprout’

\*リストの読み方及び略語は, 前号の『英語語彙におけるゲルマン系二重語 (1)』に準ずる。なお, 前号においては, 紙面の都合で次の二重語の記載を省略した。(A① hale / haul, band / bond, sleek / slick)

[sprout v. 'to give off shoots or buds'](c1200) "to grow, issue, or proceed as a sprout or sprouts" ME *spruten* < OE \**sprūtan* < Gmc \**sprūtan*

then / than [None]

[then ad. 'at that time'](695-6) "in that case; in those circumstances" ME *thenne, than, then* < OE *þanne, þænne, þenne* 'then, than' < Gmc \**thana-*

[than conj. 'used to introduce the second element or clause of an unequal comparison'](c825) "the conjunctive used after a comparative adj. or ad. to introduce the second number of comparison" ME *thanne, than, thenne, then* < OE *þanne, þænne, þonne, þon* 'then, than' < Gmc \**thana-*

through / thorough [None]

[through prep. 'in one side and out another side of'](a700) "from one end, side, or surface to the other or opposite end, side, or surface of by passing within" ME *thurgh* < OE *þurh* 'through' < Gmc \**thurh*

[thorough a. 'complete in all respects'](c1000) "from side to side or end to end of" ME *thorogh, thorough* < OE *þuruh* (full stressed form of *þurh*) < Gmc \**thurh*

tithe / tenth [None]

[tithe n. 'a 10th part of one's income, paid for the support of a church'](c1200) "the tenth part of the annual produce of agriculture" ME *tethe, tithe* < OE *teogoða, teoða* (forms of the numeral TENTH) < Gmc \**teguntha-*

[tenth n. 'the ordinal number that matches the number 10'](a900) "in concord with a substantive expressed or understood" ME *tenthe, teonthe* < OE *teogoða, teoða* < Gmc \**teguntha-*

to / too [Klein / 研究社]

[to prep. 'in a direction toward so as to reach'](c893) "expressing direction; expressing the relation of contact or the like" ME *to* < OE *tó* < WGmc \**tō*

[too ad. 'in addition'](c888) "in addition" ME *too, toe* (stressed form of *to*) ← *to* < OE *tó* < WGmc \**tō*

wight / whit [None]

[wight n. 'a living being'](c888) † "a living being in general; a creature" ME *weight* < OE *wiht* 'person, thing' < Gmc \**wihti* 'thing, creature'

[whit n. 'the least bit'](c1520) "a very small, or the least, portion or amount; a particle, jot" ME *wiht, wight* (alteration of *wight*) < OE *wiht* < Gmc \**wihti*

## ② 方言的差異によるもの

chare / chore [None]

[chare n. 'a chore or odd job, esp. a household task'](c1000) "the return or coming round again of a time" ME *cherr* < OE *cierr, cyrr* 'a turn, business, affair' < Gmc \**karriz, \*karziz*

[chore n. 'a routine or minor duty'](1746) "a small piece of domestic work, a little job" ModE (dialectal var. of *cherr*) < ME *cherr* < OE *cierr, cyrr* < Gmc \**karriz, \*karziz*

daft / deft [Barnhart]

[daft a. 'crazy, foolish'](c1000) † "mild, gentle, meek, humble" (now chiefly Sc. and northern dial.) ME *daft, daffte* < OE (*ge*)*dæfte* 'mild, gentle' < Gmc \**dab-* 'fitting'

[deft a. 'skillful, adroit'](c1220) "gentle, meek, humble" ME *defte* < OE (*ge*)*dæfte* < Gmc \**dab-*

dike / ditch [Klein]

[dike n. 'a ditch or channel'](847) "a ditch, trench, or fosse" ME *dik* < OE *díc* 'ditch, trench' < Gmc \**dik*

[ditch n. 'a trench dug in the ground'](1043) "a long and narrow hollow dug in the ground; the trench or fosse of a fortification" ME *dich* (southern repr. of OE *díc*) < OE *díc* < Gmc \**dik*

dint / dent [None]

[dint n. 'force or effort'](c897) † "a stroke or blow" ME *dint*, *dunt* < OE *dynt* < Gmc \**duntiz*

[dent n. 'a depression in a surface made by blow'](c1325) † "a stroke or blow, esp. with a weapon or sharp instrument" ME *dente* (dialectal var. of *dint*) < OE *dynt* < Gmc \**duntiz*

hale / whole [Klein / 研究社 / Barnhart]

[hale a. 'sound, healthy'](c1000) "free from injury" ME *hale*, *hal* (northern dial.) < OE *hál* 'hale, whole' < Gmc \**hailaz* 'whole, uninjured'

[whole a. 'containing all elements or component parts'](971) "in good condition, sound; uninjured, unwounded" ME *hale*, *hole*. *hol*, *hool* (southern and midl. dial.) < OE *hál* < Gmc \**hailaz*

pound / pond [None]

[pound n. 'enclosure'](1425) "an enclosure maintained by authority, for the detention of stray or trespassing cattle, as well as for the keeping of distrained cattle or goods until redeemed" ME *pounde*, *pownde* < OE *pund* 'enclosure for stray animals' < Gmc \**pund-* 'protruding point'

[pond n. 'a small lake'](a1300) "a small body of still water of artificial formation" ME *ponde* (Sc. and Eng. dial.) < OE *pund* < Gmc \**pund-*

raid / road [None]

[raid n. 'a surprise attack, invasion'](c1425) "a military expedition on horseback; a hostile and predatory incursion, properly of mounted men; a foray" ME *rade* (Scottish form of OE *rád*, received by Scott and subsequently adopted in general use with extension of meaning) < OE *rád* 'a riding road' < Gmc \**raid*

[road n. 'a path'](c888) † "the act of riding on horseback" ME *rode* < OE *rád* < Gmc \**raid*

scatter / shatter [Klein]

[scatter v. 'to disperse'](1154) "to dissipate, squander" ME *scateren* (northern dialectal var. of *schateren*) < OE *sc(e)aterian* 'to scatter' < Gmc \**skat-* 'to sprit, scatter'

[shatter v. 'to burst suddenly into pieces, as with a violent blow'](c1330) "to scatter, disperse, throw about in all directions" ME *schateren* < OE *sc(e)aterian* < Gmc \**skat-*

sham / shame [None]

[sham n. 'something false or empty purporting to be genuine'](1677) "a trick, hoax, fraud" ME *scham* (northern dial. of SHAME) < OE *scamu*, *sceamu* < Gmc \**skamō*

[shame n. 'a painful emotion caused by a strong sense of guilty'](c725) "the painful emotion arising from the consciousness of something dishonouring, ridiculous, or indecorous in one's own conduct or circumstances, or of being in a situation which offends one's sense of modesty or decency" ME *scame*, *ssame* < OE *scamu*, *sceamu* < Gmc \**skamō*

thresh / thrash [None]

[thresh v. 'to beat, as with a flail, to remove the grain or seeds'](a800) "to thresh(thrash)corn" ME *threschen* < OE *perscan*, *prescan* < Gmc \**therskan*

[thrash v. 'to beat or flog with or as with a whip'](a800) "to thresh (thrash)corn" ME *thraissch* (dialectal var. of *threschen*) < OE *perscan*, *prescan* < Gmc \**therskan*

troth / truth [Klein]

[troth n. 'good faith'](c1175) "faithfulness, good faith, loyalty; honesty" ME *trowth*, *troth* (midland and northern dialectal variants of OE *tréowð*) < OE *tréowð* < Gmc \**triuwipō*

[truth n. 'conformity to fact or actuality'](c893) "the quality of being true" ME *trowthe* < OE *tréowð*, *triewth* < Gmc *\*triuwipō*

wrath / wroth [None]

[wrath a. 'forceful, often vindictive anger'](1535) "wroth, angry, irate; deeply resentful" ME *wrath* (northern var.) < OE *wráp* 'angry' < Gmc *\*wraith-*, *\*writh-*

[wroth a. 'wrathful; angry'](c950) "stirred to wrath; wrathful, incensed, irate" ME *wrath*, *wroth* < OE *wráp* 'angry' < Gmc *\*wraith-*, *\*writh-*

③ 屈折などによるもの

belly / bellows [None]

[belly n. 'abdomen'](c950) † "a bag, skin-bag, purse, pod" ME *bali*, *bely* < OE *balg*, *belig*, *belg* 'bag, belly, bellows' < Gmc *\*balgiz*

[bellows n. 'a hand-operated device for directing a strong current of air'](a800) "an instrument or machine of this kind used to blow a fire" ME *belwes*, *belows* < OE *belgas* (pl. of *belg*) < Gmc *\*balgiz*

spider / spinner [None]

[spider n. ](1340) "one or other of the arachnids belonging to the insectivorous" ME *spyder* ← *spithre* < OE *spithra* ← *\*spinthra* (*spinnan* with agential suff. *-er*) ← *spinnan* 'to spin' < Gmc *\*spinnan* 'to spin'

[spinner n. ](c1220) "a spider, esp. one which spins a web" ME *spinnere* (*spinne* with agential suff. *-er*) ← *spinne* 'to spin' < OE *spinnan* 'to spin' < Gmc *\*spinnan*

stave / staff [None]

[stave n. 'a narrow strip of wood'](1398) "a stick of wood" ME *stave* (backformation from *staves* (pl. of *staf*)) ← ME *staf* < OE *stæf* 'a staff, stick' < Gmc *\*stabaz* 'post, stem'

[staff n. 'a pole, rod or stick as an aid in walking'](c725) "a stick carried in the hand as an aid in walking or climbing" ME *staf* < OE *stæf* < Gmc *\*stabaz*

straight / stretch [None]

[straight a. 'extending continuously without curving'](c1400) † "extended at full length" ME *streght*, *streiht*, *straight* (pp. of *strecchen*) ← *strecchen* < OE *streccan* < WGmc *\*strakkjan*

[stretch v. 'to lengthen, widen'](c900) "to place at full length" ME *strecchen* < OE *streccan* < WGmc *\*strakkjan*

cot / cote [None]

[cot n. 'a small house'](c893) "a small house, a little cottage" ME *cot*, *cote* < OE *cot* 'a cot, cottage, house, bed-chamber' < Gmc *\*kutom* 'a hollow space or place'

[cote n. 'a small shed or shelter for sheep or birds'](a1034) † "a small detached house such as is occupied by poor people or labourers; a cot or cottage" ME *cot*, *cote* < OE *cote* 'a cot, cottage, house' (fem., a parallel form to *cot*) < Gmc *\*kutom*

enow / enough [None]

[enow a. 'enough'](c1033) "the plural of ENOUGH" ME *ynoghe*, *ynowe* (nom. (pl.), acc. (pl.)) < OE *genóge* ← *genóg* < Gmc *\*zanōzaz* 'sufficient'

[enough a. 'sufficient to meet a need'](a1000) "sufficient in quantity or number" ME *ynogh*, *enogh* (nom. (sing.), acc. (sing.)) < OE *genóh* ← *genóg* < Gmc *\*zanōzaz*

④ ゲルマン祖語における屈折や派生によるもの

stench / stink [None]

[stench n. 'a strong and foul odor'](a900) † "an odour, a smell" ME *stenche* < OE *stenc* 'a smell, scent' < Gmc *\*stankwiz* ← *\*stankw-* (ablaut var. of *\*stinkw-*)

[stink v. 'to emit a strong, offensive odor'](c725)†“to emit a smell or vapour of any kind”  
ME < OE *stincan* 'to emit a smell or vapour' < WGmc \**stinkwan* ← Gmc \**stinkw-*  
stick / stitch [None]

[stick v. 'to pierce'](a900)“to pierce, thrust” ME *stikien* (weak v.), *steken* (strong v.) 'to prick; to be infixed' < OE *stician* 'to stick, pierce' < Gmc \**stikkōn* ← \**stik-* 'to stick'

[stitch n. 'a link or knot formed by a threaded needle'](c897)†“a prick, puncture, or stab, inflicted by a pointed implement” ME *stiche* < OE *stice* 'a prick, puncture, stab thrust with a pointed implement' < Gmc \**stikiz* ← \**stik-*

stunt / stint [None]

[stunt v. 'to check the growth or development of'](1583)†“to irritate, provoke to anger” ModE  
*stunt* v. ← *stunt* a. < ME *stunnt*, *stont* 'foolish' < OE *stunt* 'foolish' < Gmc \**stunt-*  
'short'

[stint v. 'to be sparing with'](c1200)“to cut short, cease, stop” ME *stynte*, *stinte* < OE *styntan*  
'to make or to become dull' < Gmc \**stuntjan* 'to shorten' ← \**stunto-* 'short'

### C) 四重語と六重語

ゲルマン系二重語には、四重語と六重語が見いだされる。四重語には *bank*<sup>1</sup>/*bank*<sup>2</sup>/*bank*<sup>3</sup>/*bench* が、六重語には *ring*/*rink*/*ranch*/*rank*/*range*/*harangue* がある。前者の語源は“bench”を意味する Gmc\**bankiz* である。「土手」を意味する *bank*<sup>1</sup> は古ノルド語 *banke* を経て、「銀行」を意味する *bank*<sup>2</sup> はイタリア語 *banca* とフランス語 *banque* を経て、「列」を意味する *bank*<sup>3</sup> は後期ラテン語 *bancus* と古フランス語 *banc* を経て英語に入った。*bench* は、Gmc から直接 OE に入り、[a]が[e]になる OE 特有のウムラウトによって *benc* となった。その後、擦音化を経て *bench* となったのである。

後者の語源は Gmc\**hring* である。*rink* は古フランス語 *renc* より、*rank* は古フランス語 *renc* を経て中フランス語 *ranc* より借入された。*range* は中フランス語 *ranc* が動詞に派生し ME に入る。*ranch* はスペイン語 *rancho* を経てメキシコ・スペイン語 *rancho* よりアメリカ英語に入った。*harangue* はイタリア語 *aringa*、古フランス語 *arengue* から 1450 年頃 ME *arang* としてスコットランドに入る。古フランス語 *arang* (14~15 世紀) は中フランス語期に *harangue* (16 世紀) に変化したため、1600 年頃以降イングランドで使われるところには、形態が *harangue* となった。また、*ring* は直接 OE *hring* に入り[h]の消失によって、*ring* となったのである。念のために、以下にその過程を整理しておく。

*bank*<sup>1</sup> / *bank*<sup>2</sup> / *bank*<sup>3</sup> / *bench* [None]

[*bank*<sup>1</sup> n. 'the slope of land adjoining a body of water, especially adjoining a river, lake, or channel'](c1200)“a raised shelf or ridge of ground” ME *banke* < ON *banke* < Gmc \**bankiz* 'bench'

[*bank*<sup>2</sup> n. 'a business establishment in which money is kept for saving or commercial purposes or is invested, supplied for loans, or exchanged'](1474)“a money-dealer's table, counter or shop” Early Mod E *banke* < F *banque* < It *banca* 'bench, table, counter' < OHG *banc* < Gmc \**bankiz*

[*bank*<sup>3</sup> n. 'a set of similar things arranged in a row'](a1050)“a long seat for several to sit on, bench or form” ME *banck* < OF *banc* 'a bench' < LL *bancus* < Gmc \**bankiz*

[*bench* n. 'a long seat, often without a back, for two or more person'](a1000)“a long seat, with or without a back, usually of wood, but also of stone” ME *benc(e)* < OE *benc* 'bench' < Gmc \**bankiz*

*ring* / *rink* / *rank* / *range* / *ranch* / *harangue* [None]

[*ring* n. 'a circular object, form, or arrangement with a vacant circular center'](c950)“a small

circlet of precious metal, and frequently set with precious stones or imitations of these, intended for wearing upon the finger either as an ornament or as a token, and sometimes for use as a seal" ME *ring* < OE *hring* 'circular band' < Gmc *\*hringaz* 'something curved, circle' [rink n. 'an area surfaced with smooth ice for skating, hockey, or curling'] (1375) † "the space of ground within which a combat, joust, or race takes places" ME *renk*, *rynk* < OF *renc* 'row, rank' < Gmc *\*hringaz*

[rank n. 'row, line'] (1570) "a row, line, or series of things" ME *ranke* < MF *ranc* 'row, line, rank' ← *renc* < Frank. *\*hring* < Gmc *\*hringaz*

[range v. 'to place in rank'] (1375) "to place, set, or station" ME *rangen* < MF *ranger* < OF *ranger* 'to place in rank or ranks' ← *ranc* 'row' ← *renc* < Frank. *\*hring* < Gmc *\*hringaz*

[ranch n. 'a large farm with its building and employees'] (1845) "a rudely-built house, a hut or hovel" < Mexican Sp *rancho* 'a small farm' < Sp *rancho* 'mess, messroom' < OHG *\*hring* 'circle, ring' < Gmc *\*hringaz*

[harangue n. 'a formal speech'] (1450) "a speech addressed to an assembly, a loud or vehement address, a tirade" ME *arang* < MF *areng* (14-15c.), *harangue* (16c. -) < It *aringare* 'to harangue' ← *aringo* 'public place for assemblies and horse races' < Goth *\*hriiggs* 'circle' < Gmc *\*hringaz*

### 3 おわりに

借入は、基本的には、本来語に不足しているところを補うためになされる。異文化に属する新しい事物や概念に対して、本来語では適切で簡潔な表現ができない場合や意味を区別する能力に欠ける場合などにおいて借入するのである。また、その時代の文化的流行や、文体的・言語的模範として借入することもある。アングロ・サクソン民族は、借入語を受け入れることにきわめて柔軟であった。時には友好的な、時には敵対的な関わり方で、常にいろいろな民族と接触して、さまざまな民族の言語から多量の語彙を借入してきた。その結果、英語は混淆的性質をもつ語彙を有することになった。この特質を、二重語は端的に指し示しており、英語語彙史研究上、重要な指標となる。

ゲルマン語系二重語を検証してみると、ゲルマン民族がヨーロッパ大陸を縦横に移動している様子が見えてくる。特に、8世紀から11世紀にかけてのヴァイキングは、ヨーロッパ全域に大きな影響を及ぼした。ヴァイキングは、略奪行為もおこなったが、同時に、商業活動もおこない、文化や異文化の語彙の運び手でもあった。このヴァイキングの移動が、英語に残した痕跡は大きい。

ヴァイキングのイギリス来寇は、英語における北ゲルマン的な色彩をさらに濃くしていくことになった。デンロー地域におけるデン人の定住やその後のデン人によるイギリス支配によって、古ノルド語から日常語彙や文法機能語が借入された。一方、11世紀のノルマン人のイギリス征服によって、英語は国家制度・法律・宗教・軍事などの用語や芸術・学問・食物・流行などあらゆる分野のフランス語の語彙を多量に受け入れることになった。しかし、このノルマン人も、もとはヴァイキングであった。土地の女と結婚し、キリスト教化し、自らのゲルマン語を捨て、上位言語であったフランス語を母語にしたのである。それでも、ノルマン・フランス語はゲルマン語の語彙を残していたし、また改めてゲルマン語系言語からも借入したりした。

ゲルマン語起源の語が、デン人などが使用していた古ノルド語や、ノルマン・フランス語を經由して英語に受け入れられ、英語において二重語を形成することになった事実にも注目しておきたい。例えば、*warble/whirl*は"to turn"を意味する Gmc *\*hwerban* を語源とする。*warble*は古北部フランス語を経て、*whirl*は古ノルド語を經由して英語に入り二重語を形成した。英語という混淆語の世界で、ゲルマン語源の語彙が、長い時代や経路を経て、あたかも一族再会のごとく再び出会うことになるのは興味深い。このように、二重語の検証は、まさに、英語語彙の中にヨーロッパ文化が交錯した軌跡を見いだすことを可能にしているのである。



新しく借り入れた語が、本来語とか他の借入語と語義的に競合しても、廃用とならずに併存する場合がある。このような例を二重語の中に多く見いだせる。同じゲルマン祖語の語を語源にもつ二重語が、異なる言語を経ることにより意味の差異化(differentiation)を生じさせたり、本来語と借入語の語義が競合して意味の分化を引きおこしたりする場合がある。例えば、*garden* と *yard* の語源は、“enclosure”を意味する Gmc\* *gardaz* からきている。*yard* は古英語で“enclosure; a piece of land”の意味であり、古北部フランス語を経た *garden* と競合した。しかし、*garden* は、フランス語において、家屋に隣接し野菜や果物を栽培するための囲われた土地という意味の狭義化(narrowing)がおこなわれ、英語においても、その語義で借入された。そして、*yard* は何も植えられておらず耕作されていない家の周囲などの空き地の意味で用いられた。

また、二重語は音韻変化の具体例を指し示す結果となっている。母音や子音の変化を受けた言語を経ているかどうかで、二重語の形態に違いが生じている。16世紀初めに見られた流音[r]が有声または無声の閉鎖音[d, t]に変化し、形態に違いを生じた *paddock/park* や、古ノルド語を経た *bleak* と擦音化を受けた古英語を経た *bleach* などの二重語に、音韻変化の例証を見ることができる。

以上のように、異なった時代や言語を経ることで生じた二重語を検証することは、英語語彙の中にヨーロッパ文化の重層性を認識する絶好の手段となる。また、本来語と借入語が競合したり、借入語が他の借入語と競合した場合に生じる意味の分化の様態や、音韻変化の歴史の具体的な例証をも見ることができる。このような二重語を、日本の英語辞典に語源とともに導入する意義は大きいはずである。英語語彙に見ることのできる文化の混淆の実状を示しつつ、語の中核的な意味や広がりを示唆し、膨大な英語語彙の全体像を把握する一助となるからである。有機的な広がりをもつ英語語彙や語義の理解を深めるには、二重語に関する情報は不可欠のものである。本論文の記述が英語辞典における二重語記載の資料の一部となれば、筆者にとって幸せというべきであろう。

(『ゲルマン系二重語』おわり)

## 参考文献

- Blair, Peter Hunter. *An Introduction to Anglo-Saxon England*. Cambridge: Cambridge UP, 1991
- Robinson, Orrin W. *Old English and Its Closest Relatives — A Survey of the Earliest Germanic Language*. California: Stanford UP, 1992
- Roesdahl, Else. *The Vikings*. Penguin, 1987
- ウィルソン, デヴィッド 『アングロ=サクソン人』 中田康行訳 東京: 晃洋書房, 1990
- シェーラー, M. 『英語語彙の歴史と構造』 大泉昭夫訳 東京: 南雲堂, 1990
- デーヴィス, R.H.C. 『ノルマン人 その文明学的考察』 柴田忠作訳 東京: 刀水書房, 1992
- フィッシャー・ファビアン, S. 『ゲルマン民族・二つの魂 —「最初のドイツ人」生と闘いのミステリー』 片岡哲史訳 東京: 三修社, 1998
- 藤代幸一他 『中世低地ドイツ語』 東京: 大学書林, 1982
- 古川尚雄 『英独比較語学』 東京: 溪水社, 1991
- ホープ, M.K. 『アングロノルマン語』 大高順雄他訳 東京: 研究社, 1983
- 前島儀一郎 『英仏比較文法』 東京: 大学書林, 1986
- 『英独比較文法』 東京: 大学書林, 1987
- 森田貞雄 『アイスランド語文法』 東京: 大学書林, 1982